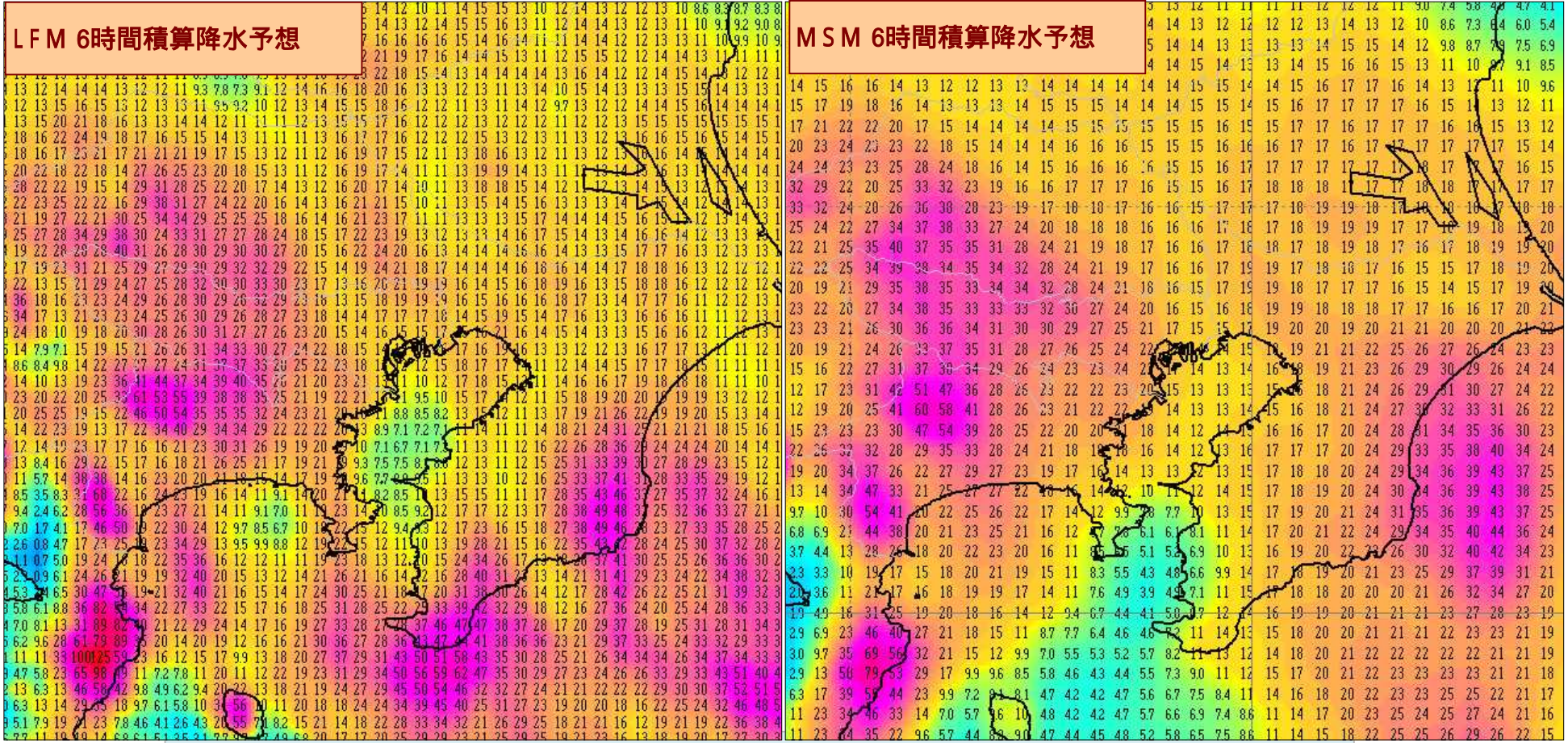


モデル同士の比較、実況との比較に

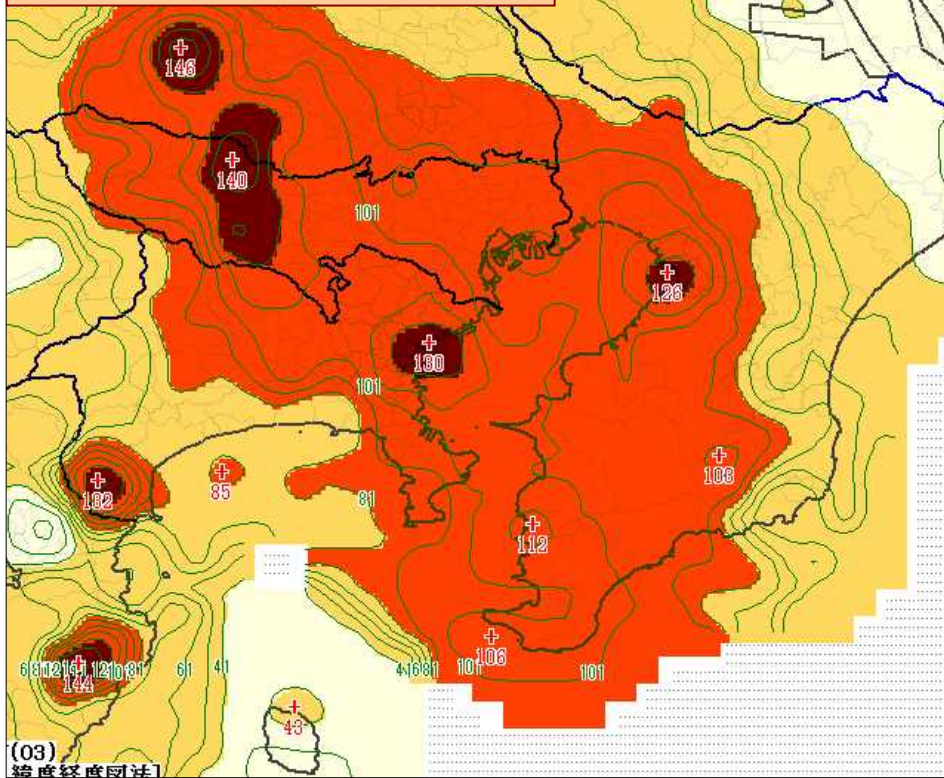
GSM、MSM、LFM、それぞれメッシュ間隔が違うので、地形の表現、それに伴う風や降水の表現も変化が出ることがあります。そんな違いを比較するのに、積算降水予測を使用すると、違いがはっきりします。これで、モデルによる計算結果の違いを考察出来ます。



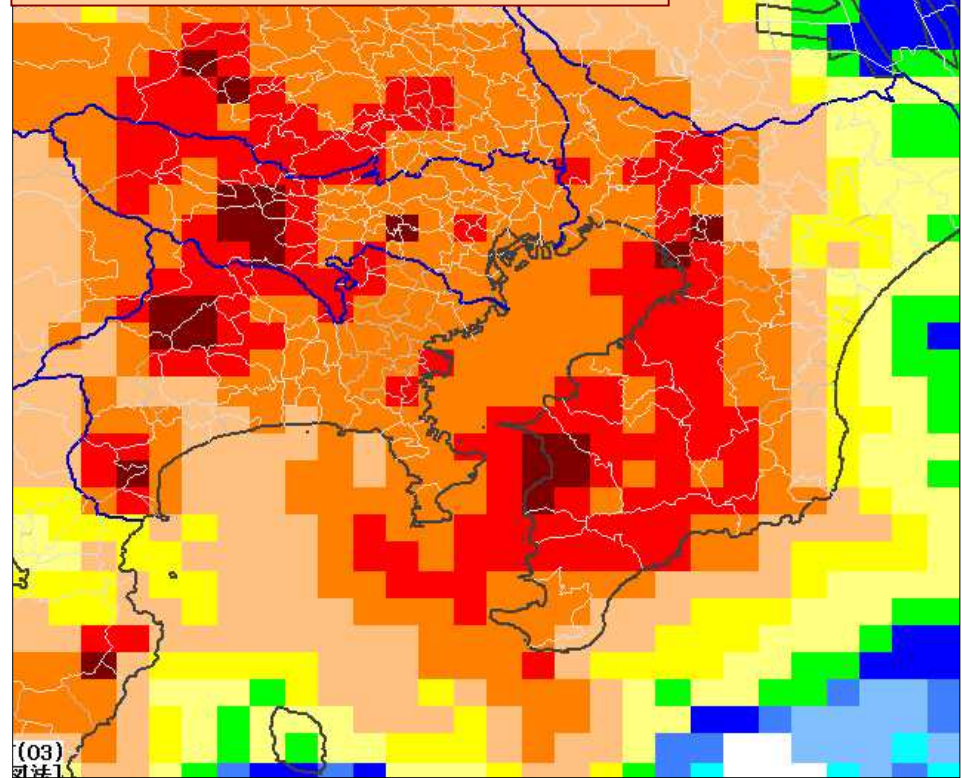
左: LFM 右: MSM
 概ね、関東西部山地(東~南東斜面)と外房に強い雨を計算していますが、際立った大きな違いは、大島の降水予想がLFMでかなり多いことです。LFMのメッシュが細かい分、大島の地形をリアルに表現できていることが、違いが明瞭に出た理由かもしれません。

モデルで表現が違う時があるのはわかりましたが、予報を提供する私たちにとっては、結果がどうだったか、モデルが当たっていたか、これが最も知りたいことかもしれません。ということで、検証もしてみましょう！

6時間積算アメダスメッシュ解析
(観測値を元にしてるのが特徴)



6時間積算レーダーアメダス解析
(観測がないエリアや海上も補完できる)



左: 同じ時間の6時間積算アメダスメッシュ解析値。右: レーダーアメダス6時間積算解析値
このように、同じ時間で容易に比較ができるのが、APLAの特徴のひとつです。
実際、比較してみて、検証することで、次に活かすことができるかもしれません。それには、まず、予測の元になるモデルの特徴を知ることが大切な事かもしれません。